

第38回

うつのみやこども賞だより

令和3年度 7回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『ぼくらのスクープ』

赤羽 じゅんこ／著 (講談社)



令和3年12月5日

～読んだ本の感想より～

- 井田と魔王が自分のきせられたぬれぎぬをはらしたり、友達の盗作ぎわくをはらしたりするところがスカッとした。
- だれが見ても「おもしろい」とか「楽しい」とか思える新聞を作るのはむずかしそう。“友達インタビュー”はいい考えだなと思った。
- 井田さんはうたがいをはらせるのか、最後までドキドキしながら読みました。
- 私も3年生のときに新聞係だったので、主人公の気持ちや考え方に共感できました。
- いい新聞記事を作れたとよろこんでいる「ぼく」たちを見ると、うれしくなった。
- 主人公がスクープを求めてほんそうするのがおもしろかった。自分も見習いたいと思った。

『はなの街オペラ』 森川 成美／作 (くもん出版)

- はなは東京へ行くが、はなのいた村でいちばん仲のよかった瀬川セイが小学校で宇都宮の学校に進学していたから、友達とはなれるとどんなことを思うか気になった。
- 主人公の気持ちなどがよく分かりました。はなが歌と芝居を通して成長していくところがとてもかっこいいなと思いました。
- 初めての舞台に立つはなちゃんの度胸はなかなか。歌が好きで、なおかつ上手に歌えることがうらやましい。読んでいてとてもイメージしやすく、まだまだ、はなちゃんの今後を見てみたいと思った。
- はなの家がまずしく、はなが「ほうこう人」にされてから響之介と出会い、歌の舞台オペラと近づけたのはすごいと思った。

『エリーゼさんをさがして』 梨屋 アリエ／著 (講談社)

- 差別のようなことを言われても自分の道を選んでいって、すごいなと思いました。
- 亜美がお母さんに向かって何か言えたことはなかったのに、最後にしっかり自分の意思を言えてよかった。
- 主人公の亜美が家族や友人とすれちがったりしても、エリーゼさんたちのおかげで成長していくところがいいなと思いました。
- 最後の方の場面で亜美ちゃんがお母さんに気持ちをぶつけていたのは、私もスッキリしたし、心に残った。

『ぼくに色をくれた真っ黒な絵描き』 北川 佳奈／作 (学研プラス)

- ジョアンがお父さんのことを知り、泣いてしまったところに感動し、とてもおもしろかった。
- お父さんが亡くなってしまって、あまり涙を見せなかった主人公が涙を見せたり、画家の人とつるんでいたりしておもしろかった。最後、画家の人についていけないのにはびっくりした。
- 色の名前は色々あるけれど、それを使っていた人の名前が色の名前に入ることもあるのだなと思いました。
- 好きなこと・人でどちらかをあきらめないといけないのではなく、どちらも手放さないところがいいなと思った。